

生きる場の思想と詩の日々

花崎皋平 著

よわい
齢90歳を迎えたその生涯をかけて
思想・哲学・詩作と格闘し今も思索し続ける
現役著者による「紙碑」の集大成!

624頁の
大著



著作リスト(翻訳を除く)

- 『詩集 明日の方へ』国文社、1956年
『詩集 年代記』国文社、1959年
『詩集 歌うたいつつ』私家版、1963年
『マルクスにおける科学と哲学』盛田書店、1969年(社会思想社、1972年)
『力と理性——実践的潜勢力の地平から』現代評論社、1972年
『風はおのが好むところに吹く』田畑書店、1976年
『朋あり遠方より来る——現場からの哲学』北沢恒彦・渋谷定輔共著、風媒社、1976年
『いのちをわかちあう』田畑書店、1980年
『生きる場の哲学——共感からの出発』岩波新書、1981年
『生きる場の風景——その継承と創造』朝日新聞社、1984年
『地域をひらく——生きる場の構築』農山漁村文化協会、1985年
『社会的左翼の可能性 労働運動と住民運動』清水慎三共著、新地平社、1985年
『解放の哲学をめざして——衆愚は天に愚ならず』有斐閣新書、1986年
『あきらめから希望へ——生きる場からの運動』高木仁三郎共著、七つ森書館、1987年
『学問に何ができるか』河合ブックレット、1987年
『静かな大地——松浦武四郎とアイヌ民族』岩波書店、1988年(岩波現代文庫、2008年)
『民衆主体への転生の思想——弱さをもって強さに挑む』七つ森書館、1989年
『島々は花綵——ヤポネシア弧は物語る』社会評論社、1990年
『アイデンティティと共生の哲学』筑摩書房、一九九三年(平凡社ライブラリー、2001年)
『タイ・カンボジアを歩く——民から民へ』岩波ブックレット、1993年
『個人／個人を超えるもの』岩波書店②世紀問題群ブックス、1996年
『〈共生〉への触発——脱植民地・多文化・倫理をめぐる』みすず書房、2002年
『〈じゃなかしゃば〉の哲学——ジェンダー・エスニシティ・エコロジー』インパクト出版会、2002年
『どこへ行く?——QUO VADIS(クオ・ヴァディス)?』自由学校「遊」ブックレット、2003年
『ピープルの思想を紡ぐ』七つ森書館、2006年
『風の吹きわたる道を歩いて——現代社会運動私史』七つ森書館、2009年
『田中正造と民衆思想の継承』七つ森書館、2010年
『あきらめから希望へ——高木仁三郎対論集』高木仁三郎・前田俊彦共著、七つ森書館、2011年
『天と地と人と——民衆思想の実践と思索の往還から』七つ森書館、2012年
他に2004年から、詩集として
『おたるとみおか偶感詩片』私家版、2004年
『おたるとみおか滴滴詩録』私家版、2009年
『アイヌモシリ』の風に吹かれて』クルーズ、2009年
『詩集 風のとおり道』北溟社、2012年
『詩集 いのちへの旅』地湧社、2015年
『チュサンマとピウスツキとトミの物語他』未知谷、2018年
二人の娘の制作による私家版詩集『生と死を見晴らすかす橋の上で』私家版、2020年
『詩集 アイヌモシリ』の風に吹かれて』クルーズ、2022年

目次

はじめに

- 第1章 青春前期の悩みと彷徨
第2章 嵐と大波に呑み込まれた時代
第3章 東京から北海道へ—市民となる過渡期
第4章 大学を辞め、生き方を変える
そしてウーマン・リブとの出会い
第5章 アイヌ民族の権利回復運動
第6章 ビーブルズ・プラン21世紀国際民衆行事
第7章 沖縄で暮らす
第8章 転換期における世界的な民衆の主体形成
第9章 カンボジア、ラオス、ベトナムへの旅
第10章 東アジアの国家テロリズムと民衆
第11章 女性国際戦犯法廷
第12章 高木仁三郎さんとの対話原稿を書く
第13章 人質事件
第14章 沖縄の島々を歩く、そしてアイヌの
遠山サキフチの傘寿
第15章 あたらしい政治文化運動の模索へ
第16章 ネルダの国チリ
第17章 ロング・ウォーク「ピリカ・ケウドム・アッカシ」
第18章 田中正造の足跡を追って 思想家森崎
和江について

あとがき

書店番線	発行:藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546	
月日	生きる場の 思想と詩の日々	花崎皋平 著
冊		2022年3月15日 第1刷発行 発行 藤田印刷エクセレントブックス 判型 四六判 並製本(624頁) 定価 3630円(税込) 印刷 藤田印刷株式会社
	定価3630円(税込) ISBN 978-4-86538-132-0 C0010 ¥3300E	

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで